小川水系河川整備基本方針

平成13年１月

富　山　県

小川水系河川整備基本方針（案）

目　　次

第１章　河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 1

第１節　流域の概要 1

１）流域の概要 1

２）治水事業の沿革と現状 1

３）河川利用の現状 2

４）河川環境の現状 2

第２節　河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 3

１）河川整備の基本理念 3

２）河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 3

(1) 洪水による被害の発生の防止又は軽減 3

(2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持 3

(3) 河川環境の整備と保全 4

第２章　河川の整備の基本となるべき事項 5

第１節　基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 5

第２節　主要な地点における計画高水流量に関する事項 5

第３節　主要な地点における計画高水位及び計画横断形の川幅に関する事項 6

第４節　主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項 6

水系参考図 7

第１章　河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

第１節　流域の概要

（１）流域の概要

ア　流域

小川水系は、その源を富山県下新川郡朝日町の南東、定倉山（1,406m）に発し、山合川、舟川等の支川を合わせ、入善町古黒部及び朝日町赤川地先において富山湾に注いでおり、その流域は朝日町、入善町及び宇奈月町にまたがり、流域面積は約90km^2、幹川流路延長は約16kmである。

流域の気候は日本海側気候の特徴を示し、年平均降水量は約2,500mmで、梅雨期と秋期から冬期にかけて降水量が多い。特に6月上旬から10月中旬にかけて、梅雨前線及び台風や秋雨前線により大雨となることがある。冬期の降水は、降雪によるものである。年平均気温は約14℃となっている。

当該地域の地質は、上流域では白亜紀後期の新期花崗岩類、同火山岩及び中生代ジュラ紀手取層の礫岩、中流域では新第三紀の堆積岩からなる。下流域は旧扇状地を開析して現在の沖積扇状地を形成している。地形は、上流域でＶ字渓谷、中流域で両岸に谷底平野、下流域では黒部川扇状地の東側辺縁部にあたり、扇状地を形成している。

（２）治水事業の沿革と現状

小川においては、明治45年（1900）7月豪雨による大水害のほか、それまでにも数多くの水害が発生していた。小川の治水事業は、昭和16年度（1941）から昭和47年（1972）の間、朝日町月山（新小川橋）における計画高水流量を800m^3/sと定め、本川においては河口から朝日町羽入地先間の延長8.7km、支川の舟川においては本川合流点から延長2.0kmの築堤、掘削等を実施してきた。

この間、昭和44年（1969）8月の未曾有の豪雨では、従来までの計画を上回り、本川及び支川舟川流域などに、堤防決壊、床上・床下浸水、農地の流失等の甚大な被害をもたらしたため、これを踏まえ、従来までの計画を見直し、朝日町月山(新小川橋)における基本高水のピーク流量を1,035m^3/s、計画高水流量を800m^3/sとして、上流の朝日小川ダムで、235m^3/sを調節する計画を決定した。

朝日小川ダムは、朝日町阿造谷地先に、昭和53年度（1978）から建設に着手し、平成２年度（1990）に完成した。

近年では、昭和60年7月、平成7年7月及び平成10年7月に大規模な洪水が発生したが、本川はダムによる洪水調節により、大きな被害は発生しなかった。一方、支川舟川、山合川では床下浸水、農地の流出等の被害が発生するなど、水系における河川の整備状況はまだ十分な段階に達しておらず、早期の治水安全度の向上が必要である。

なお、小川において、記録に残る高潮被害は生じていない。

３）河川利用の現状

小川の河川水は古くから朝日町、入善町の農地約500haのかんがい用水として利用されている。夏期には度々深刻な水不足に見舞われ、安定したかんがい用水の確保が求められていたが、朝日小川ダムの完成により、現在では、かんがい用水の安定的な補給が行われているほか、水力発電用水や冬期における安全で円滑な交通の確保のための消雪用水としても広く利用されている。

一方、支川舟川の河川水も主にかんがい用水に利用されているが、例年、夏期になると中流から上流域のかんがい用水の取水に苦慮しており、近年では、平成6年、平成10年の夏期にかんがい用水の水不足が発生するなど、地元住民から取水の安定化が強く望まれている。

また、小川には内水面漁業権が設定され、漁業が営まれており、アユ、ヤマメ、イワナ、サケの稚魚の放流が行われている。

今後とも、これらの水利用や動植物の生息地・生育地の状況、景観、流水の清潔の保持等を考慮した流水の正常な機能が維持されることが求められる。

４）河川環境の現状

小川の上流域は、ミズナラなどの自然林や２次林に覆われて渓谷美が続き、朝日県立自然公園に指定されており、渓谷と清流に代表される自然景観豊かで、四季折々の美しさを呈している。朝日小川ダム周辺には、ダム建設にあわせてハーブ園「ハーバルバレーおがわ」や遊歩道等の自然探勝スペースが整備され、花の見頃の6月から7月を中心に多くの人々に利用されており、また、ダム湖上流には露天風呂のある小川温泉や北アルプス後立山連峰へと連なる朝日岳・白馬岳への登山口があり、訪れる人は後を絶たない。また、渓流釣りを楽しむ釣り人の姿も年中多く見られる。

中・下流域の河道内の状況は、朝日小川ダムによる洪水低減の効果によって、河道の固定化により寄州や中州が万年州となっており、ヤナギ群落、アキグミ群落、ススキ・ツルヨシ群落の生育が急速に進行していることが見受けられる。また、中流から下流かけて、アユ、ヤマメ、貴重種に指定されているカマキリ（アユカケ）をはじめ多様な魚類が生息しており、アユ釣りの時期には、多くの釣り人で賑わっている。河口部ではコサギ、ユリカモメなどの鳥類が群をなす姿がみられ、近年では、貴重な鳥類に指定されている渡り鳥のコアジサシが春先に河口部の中州で集団で営巣する姿が確認されている。

支川舟川の小川合流点付近には、河川改修整備を記念して桜並木が整備され、今では県内屈指の桜の名所となっており、毎年4月に開催される「あさひ桜まつり」には、多くの花見客でにぎわう。また、舟川の低水護岸の整備や平成12年4月に朝日環境ふれあい施設「らくち～の」が整備されるなど、この周辺は人と自然環境とのふれあいの場となっている。

また、小川は、Ａ類型の水質環境基準類型指定を受けており、環境基準地点（赤川橋地点）で、最近5年間の平均値はBOD値で見ると0.7mg/lであり、環境基準値のBOD2mg/lを達成している。

今後とも、このような北アルプスの雄大な山々を背景とした四季折々の渓谷美、清冽な小川の流れなど小川流域の上流から河口まで変化に富んだ自然環境の保全に努めるとともに、小川の利用状況を踏まえ、地域住民が川と親しむことができる水辺空間の形成や保全が求められる。また、地域住民の参加による川づくり、河川愛護の定着を図るため、地域住民との積極的な連携が求められる。

第２節　河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

１）河川整備の基本理念

小川水系における今後の河川整備の理念は、河川の現状、水害発生の状況及び河川の利用と河川環境の現状を踏まえ、地域社会、経済情勢の発展に即応するよう関連する計画との整合を図り、

「治水」・・・・・住民の生命・財産を洪水から守る。

「利水」・・・・・河川の機能を維持し、安定した水利用が図れるよう努める。

「河川環境」・・・うるおいと安らぎのある水辺環境を整備する。

とのバランスをとって、水源から河口まで一貫した計画のもとに整備を図っていくものとする。

２）河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

小川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、河川整備の３つの基本理念を踏まえ、河川の現状、水害発生の状況及び河川の利用と河川環境の現状を考慮し、次のとおりとした。

(1) 洪水による被害の発生の防止又は軽減

小川水系では、流域内の社会・経済的な重要度と県内他河川との計画規模の整合、昭和44年(1969)8月豪雨による洪水等の既往洪水を踏まえ、50年に１回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることを目標とする。

さらに、関係機関や地域住民と連携して、災害情報伝達体制及び警戒避難体制の整備等水防体制の強化を図るなど総合的な被害軽減対策を推進する。

(2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

小川の河川水は、沿川の水田のかんがいに利用されているほか、水力発電用水や冬期の消雪用水としても利用されており、これらの水利用や動植物の生息地・生育地の状況、景観、流水の清潔の保持等を考慮した流水の正常な機能が維持されるよう努める。

(3) 河川環境の整備と保全

小川水系では、上流から河口まで変化に富んだ自然環境を有し、アユ、ヤマメなどに代表される多様な動植物が生息・生育することから、河川の特性や地域の個性に配慮した河川環境の整備と保全を図る。

また、人と川の共生を確保するために、河川の利用状況、自然環境との調和に配慮しながら、川とのふれあい、環境教育の場としての水辺空間の整備と保全を図る。

さらに、河川に関する情報を地域住民に幅広く提供することにより、河川と地域住民との連携を積極的に図り、河川愛護の定着と啓発、地域住民の参加による川づくりが図られるよう努める。

第２章　河川の整備の基本となるべき事項

第１節　基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、昭和44年(1969)8月豪雨による洪水等の既往洪水を踏まえ、50年に1回程度発生する規模の洪水とした。また、そのピーク流量は、基準地点朝日町月山（新小川橋）において1,035㎥/sとし、このうち上流の洪水調節施設により、235㎥/sを調節して、河道への配分流量を800㎥/sとする。

基本高水のピーク流量等一覧表　　単位：㎥/s

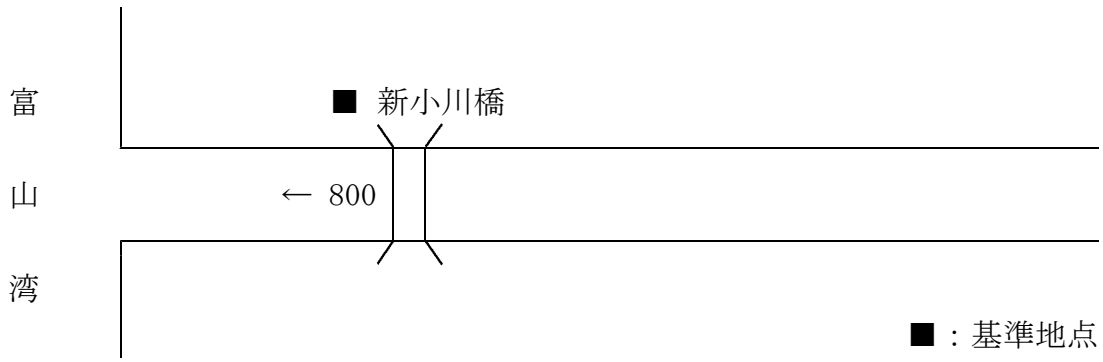
河　川　名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
小　　川	新小川橋	1,035	235	800

第２節　主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、新小川橋において800㎥/sとする。

計　画　高　水　流　量　図

単位：㎥/s



第３節　主要な地点における計画高水位及び計画横断形の川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び河道の計画横断形に係る概ねの川幅は、次のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅一覧表

河 川 名	地 点 名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.:m)	川 幅 (m)	摘　要
小　川	新小川橋	1.6	+17.31	130	基準地点

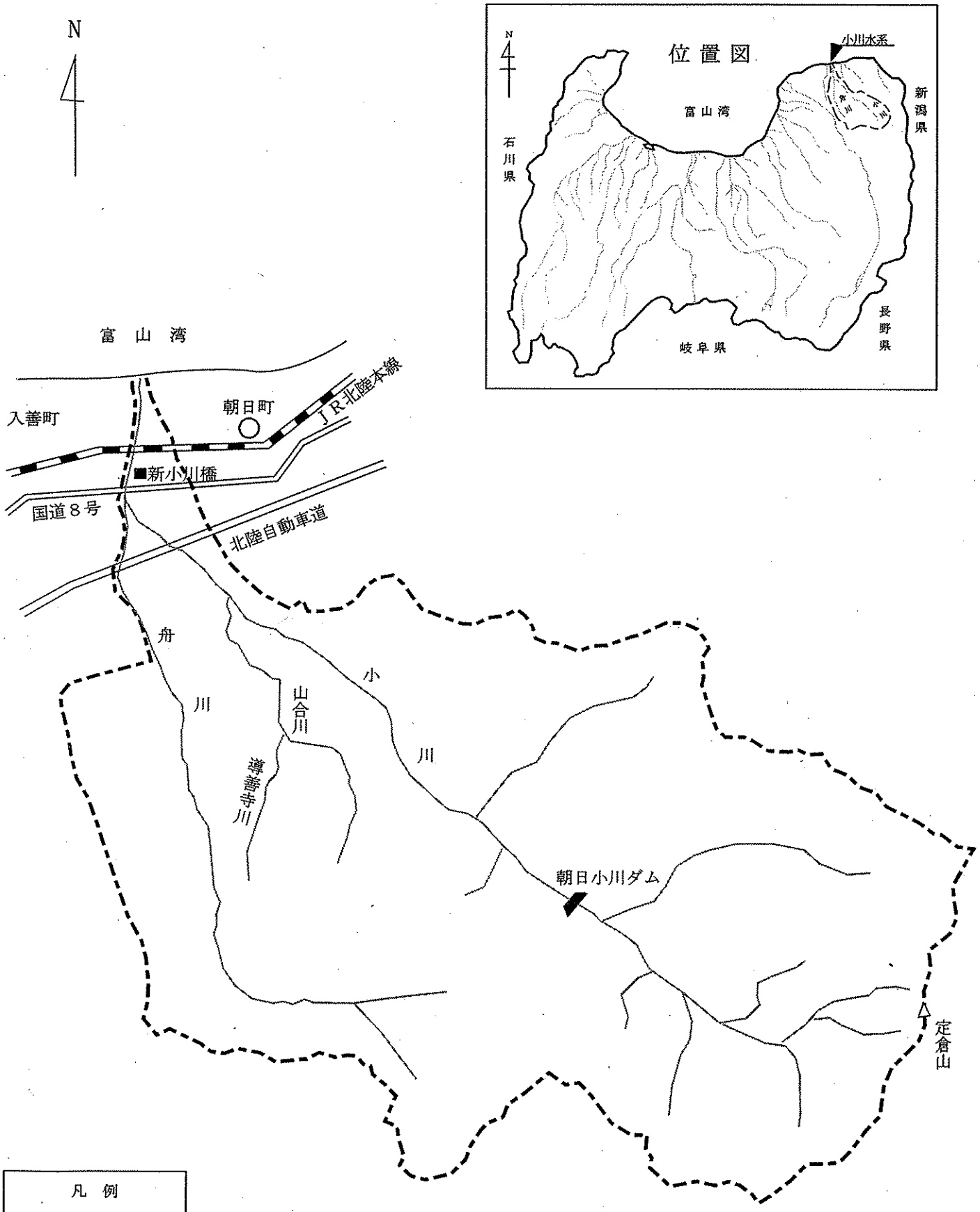
T.P.：東京湾中等潮位

第４節　主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

小川では、既得水利として、水力発電用水で約19.0㎥/s（最大)、かんがい用水で約3.6㎥/s、消雪用水で約0.009㎥/s及び慣行水利として、かんがい用水で約0.14㎥/sの水利用がなされているが、朝日小川ダムにより安定的な供給を行っており、良好な流況となっている。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、かんがい用水等の利用実態を調査し、動植物の生息地または生育地の状況、流水の清潔の保持等に十分配慮し、設定するものとする。

小川水系参考図


N
位置図
小川水系
富山湾
石川県
新潟県
岐阜県
長野県
富山湾
入善町
朝日町
JR北陸本線
新小川橋
国道８号
北陸自動車道
舟
川
山合川
導善寺川
小
川
朝日小川ダム
定倉山
凡例
基準地点
流域界
0
1
2
3km